

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号			
法人名	有限会社成栄測量設計事務所		
事業所名	グループホームティアラ		
所在地	富岡市富岡362-7		
自己評価作成日	平成25年1月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成25年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行に伴い、ADLの低下が目立ってきている。その人らしい食事・排泄・入浴等を考え、情報を共有し、段階的にケアを変更し、統一している。できることが限られている中で、生活そのものの中から喜びが得られ、苦痛の少ない日々が送れるよう、常に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年開設以来自治会に加入し、普段から地域とのつきあいを大切に考え、あらゆる機会に交流を深めている。地域の祭りでは屋台が事業所の広場に寄ったり、事業所の行事では地域の方々が招待者でなく、共にバーベキューで焼きそばを焼くなど、一体となって行事を楽しむ関係が築けている。また、近隣の小学生・中学生の体験学習や、看護学生の実習を受け入れるなど、開かれた事業所運営に努めている。これからは近くの障害者の通所施設との積極的交流も考えている。介護面では現在、平均介護度3.8で、年々利用者の重度化に伴い職員の介護負担も増加するなか、職員3人体制での排泄介助や入浴介助、出来る限り買い物に利用者を伴い食べたい物を聞く機会づくりを心がけるなど、個人の尊厳と自立を重視した本人本位の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげる努力をしている。	開設当初に「ゆったり・一緒に・楽しく・豊かに」という理念が職員とともに作られ、後に外部評価の結果を受けて「地域のなかで自分らしくこころ豊かに暮らす」主旨の文言が加えられた。理念は施設内に張り出され、職員は何時でも目にする事が出来る。	事業所運営の柱となる理念の趣旨・内容をあらゆる機会に職員が共有して、実践に取り入れられることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域情報を得ている。区長、組長、民生委員の方と密接な関わりを持ち、行事等を地域の方と共にやっている。	普段から地域との交流を大切にし、大正琴等のボランティアの受け入れを始め、近隣の小・中学生の体験学習や看護学校の実習の受け入れ・交流を行なっている。地域の行事参加とともに、事業所行事にも地域の方々のスタッフとしての協力があるなど、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症についてお伝えしている。地域の人々からの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常のケアに触れたり、避難訓練等に参加して頂き、意見交換をし、次回に活かすようにしている。	会議開催は、事業所での避難訓練など各種行事と兼ねた開催となっている。会議のメンバーに、これらの機会を通して、認知症の理解を深めてもらうことも目的としていて、メンバーも積極的に参加し、幅広い意見の交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員に電話での連絡や文面での報告等を速やかに行い実情をその都度伝えている。	市窓口への書類提出の通常業務を始め、入居状況や施設運営での課題について、市からも働きかけがある。また、市職員の避難訓練への参加があるなど、良好な関係づくりがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が勉強会を通し、学んでおり、時間帯、状況に応じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、原因の究明と、ケアの改善の提案と実施など、機会あるごとに模索が行なわれている。過去に転落事故防止の対策も講じたが、現在、四点柵のベット使用者が4人ほどいる。	「利用者の安全を確保した自由な暮らし方」を職員で掘り下げ、拘束期間や本人の状況を十分勘案するなか、身体拘束しないケア実現を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が勉強会を通し、学んでおり、時間帯、状況に応じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は受講しているが、活用できるよう支援する機会がまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に不安や心配なことを聞き出し、安心できるよう十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員の皆さんの意見やご家族の面会時等の話を傾聴し、運営に反映される努力をしている。	家族とは面会時やケアプラン作成時に、意見交換をしている。訪問時は、長い時間滞在し、利用者や面談してもらえるよう、個々の家族に合ったお茶の接待や場所の提供の環境づくりに努めている。家族会会長が、事業所の苦情相談窓口の一つになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の話を聞く機会を作り、反映させている。	社長はじめ管理者は、気持ちよく職員に働いてもらうことが、利用者のサービス向上に結びつくとの考えのもと、勤務体制への配慮や日常の職員の様子も観察し気軽に声かけするなど、働きやすい職場環境づくりに努め、離職率が極めて低い事業所となっている。	職員と共に築く運営体制を作るために、この点を意識した面談等の方策を検討されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務状況やミーティングなど職員個々の努力や実績を把握し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの立場、環境を把握し、活躍できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設け、意見交換や情報交換を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活を知り、馴染みの生活用品で、安心して生活できるような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族の関係性を大切にし、困っていることに、耳を傾け、要望に応じ、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況により、できることを見極め、必要としている支援には、すぐに応じるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ等を共にし、役割を持つことにより支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にし、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報や思いを大切にし、家族との温かな絆が保持できるよう共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人の来所を歓迎し、共にお茶を楽しめるような環境作りをしている。馴染みの店や美容室に行けるよう支援している。	介護度が高い方でも、共通の話題では話が弾み、普段見られない表情を見せてもらえるので、馴染みの方の来訪を歓迎している。教会関係者が定期的に訪れる利用者もいる。利用者の希望で、職員と馴染みの美容室や商店にも出かけ、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々変化する関係を把握し、必要に応じ、席替えや居室移動も行い交友関係が築けるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を表現しやすいような雰囲気や時間を見いだすよう努めている。困難な場合は生活歴や日常の生活から希望を導き出している。	職員は日々の関わりのなかで声かけを多くし、利用者の気持ちにより添っている。そのためか介護度が高い方でも意思表示が可能で、普段の会話や、表情・しぐさから本人の思いや意向を汲み取る努力をしている。これらの情報は、業務日誌に記録され、職員の共有化が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を記入して頂き、これまでのサービス利用からの情報提供により、経過を把握している。家族から馴染みの暮らし方を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕のバイタルチェック、日々の観察により把握している。ミーティングでの情報を共有し有する力の変化を知り、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員は本人や家族の意向を聞き、また、担当職員からの情報を得ながら介護計画を作成している。作成された介護計画書は2ユニットの職員全員が目を通し、確認のサインをしている。モニタリングは毎月行い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の目標達成に向けたモニタリングの記録方法等を工夫し、介護計画に基づくケアの実践がより明確になることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有しながら、気づきや工夫を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の低下に伴い、リフト浴を設置し、相応しい入浴方法を選択できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が心身の力を発揮しながら、安全で楽しく暮らして行いくことが、できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係も考慮しつつ、病状によっては、病院の意見や往診により、適切で、継続的な医療が受けられるよう支援している。	介護度の高い利用者が多いので、10名くらいの方がかかりつけ医の往診(月2回)を受けている。協力病院の医師は認知症に理解があり、施設見学に来てくれたり、入院相談を受けてもらったりしている。通院は原則家族送迎であるが、状況により職員も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受信時に、日常生活の中での気づきや情報を伝えるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、現状に至までの症状やケアについて家族に伝え、今後についての話し合いを行う。継続的な医療が必要な時には、主治医から家族に話してもらう。	食事が食べられない、あるいはエアマット使用になった段階を、重度化したと判断している。その都度、医師・家族と話し合い、本人にとって一番ふさわしい場所はどこかを念頭に置き対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを作成し、勉強会で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施している。一回は消防署の指導のもと夜間など様々な場面想定し、入居者、運営推進会議の方と共に訓練している。	年2回、消防署指導のもと、避難訓練を実施している。訓練には運営推進会議メンバーの参加とともに、近隣住民が事業所へ駆けつける訓練も行なっている。避難場所も事業所内でなく、道の向かい側にある勤労者会館を利用するなど、地域を意識したものになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄解除時は、特にプライバシーを損ねないよう配慮している。人格を尊重するため必要に応じ、席替えや居室移動も検討し、行っている。	常に人生の先輩として、誇りを失わせることのない配慮を心がけ、失禁時は別の話題で話しかけて、着替えや清拭場所へ誘導している。排泄時は声かけによる確認や入浴時の職員との1対1の対応など、羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事準備をする前に食べたいものを聞いている。入浴準備を職員と一緒に好み衣類を選べるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩を取る時間等、その日の体調や希望に合わせ、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前に行っていた美容室に行き、パーマ・カットをし、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛りつけ、味見、後片付け等、それぞれの役割を持ち、職員と会話しながら行っている。食事補助をしながら、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	献立は定めず、職員が交代で利用者の希望を取り入れながら、3食調理している。食材の買い出しも外出可能な利用者とともに出かけ、楽しい食事作りを心がけている。食材を使った地元行事(屋敷祭り)での飾りつけや、季節に応じた食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はチェックし、業務日誌に記録し、情報を共有している。状態に合わせて、きざみ食、ミキサー食等も提供し、水分にトロミを付け、誤嚥にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に食べ物が残らないようにケアしている。入れ歯は外して洗浄している。状況に合わせて夜間は外している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意に合わせ、訴えや仕草ですぐに応じるようにしている。排泄パターンを把握し、共有している。	現在、利用者のほとんどがおむつ・パット使用であるが、そのなかで、夜間でもトイレ使用を行なう方もいる。毎日の観察を通して、自立支援のもと職員3人での排泄介助もあり、おむつから紙パンツに変更になった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、3日以上便秘が続かないよう統一している。牛乳、ヨーグルト食事等で自然な排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日とリフト浴日を設け、体調や希望に応じ、入浴が楽しめるよう声がけしている。	入浴日は週4日で、通常は2回の入浴としている。本人の希望で、入浴順に配慮したり、入浴日を変更したりしている。拒否する方には、入浴とは告げずに誘導したり、時間帯をずらしたりするなどの支援が行われている。季節湯等も考えるなか、ゆったりとした個浴を楽しむ支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、希望があれば畳部屋にもしている。冬は湯たんぽ、夏は希望によりアイスノンを用い、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書専用ファイルを設け職員全員が理解できるようにしている。症状の変化や薬の変更については、お薬手帳に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に得意な分野で役割を活かせるよう支援している。年中行事を通し、楽しみごと気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら希望があれば散歩、買い物に出かけている。家族に外出を呼びかけている。	天候を考慮するなか、日常的に散歩が行なわれている。希望により、買い物や書道展・美術展へも出かけている。家族対応でのお墓参りや外食には、事業所の送迎支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することにより、安心できる方は、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの訴えがある時は、電話をしている。手紙を書くよう声をかけたり代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、野菜作りをして季節感を持てるようにしている。台所からの音や香がホールで感じる事ができ生活感がある。	昨年、施設が全面新築され、建物全体にゆとりが感じられる。食堂兼居間と隣接する台所は、2ユニットの中央に位置していて、共有となっている。廊下等には油絵が飾られるとともに、行事の写真も飾られ、季節感のある演出がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファや絵画は寛げる空間となっている。自由に居室に行き、ひとりの時間も見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた寝具や馴染みのものを持参するよう伝えている。	エアコンが設置され、事業所提供のベットに本人の布団等が使用されている。家族の協力の中、家族との写真や使い慣れた椅子などが置かれ、その人らしい居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアの所に名前を貼り、自室に戻れるよう工夫している。		